

# Determining the usefulness of Capsule Scoring of Ulcerative Colitis in predicting relapse of inactive ulcerative colitis

Mao Matsubayashi, Taku Kobayashi, Shinji Okabayashi, Masaru Nakano, Shintaro Sagami, Ryo Ozaki, Hiroki Kiyohara, Hiromu Morikubo, Kunio Asonuma, Yusuke Miyatani, Shin Maeda, and Toshifumi Hibi  
Journal: Journal of Gastroenterology and Hepatology DOI: 10.1111/jgh.15220



## 非活動期潰瘍性大腸炎患者の再燃予測にCapsule Scoring of Ulcerative Colitis (CSUC)は有用である

松林 真央 (消化器内科、IBDセンター)

**【研究の背景】** 当センターでは、潰瘍性大腸炎(UC)の患者さんの内視鏡検査の負担を少なくするために大腸カプセル内視鏡検査を活用しています。超小型カメラを内蔵したカプセルが腸を通過しながら画像撮影し体外のレコーダーに画像を記録するため、痛みがほとんどないことが特徴です。当センターで考案した方法は最短約1時間で帰宅が可能で、従来法にくらべて半分以下の腸管洗浄液の内服量であるため患者さんの評価も高く、カプセル内視鏡学会からも推奨されています。また、慶応大学との共同研究により、大腸カプセル内視鏡の所見から、血管透見、出血、びらん・潰瘍の程度を点数化し重症度を評価するCapsule Scoring of Ulcerative Colitis (CSUC)を報告し、通常の大腸内視鏡と関連していることを報告しました。更に本研究では、CSUCで非活動期の患者さんの再燃を予測できるかを検討しました。

**【研究の概要】** 臨床的寛解状態のUC患者さんのCSUCと採血、便検査の結果とを比較しました。さらにその後の患者さんの経過を観察しました。

### 【結果】

- CSUCと便中カルプロテクチンおよび便潜血の値は相関していました。
- 1年以内に再燃した患者さんのCSUCの方が臨床的寛解を維持した患者さんよりも高いことが分かりました。
- CSUC0の患者さんは1以上の患者さんよりも再燃する可能性が低いことが分かりました。
- 寛解導入が成功してから6か月以内に検査を受けた患者さんを分析した結果、CSUCが1以下の患者さんは高い確率で1年以上の臨床的寛解を維持できることが分かりました。

**【結論】** CSUCは特に寛解導入治療後6か月以内に使用された場合に、臨床的寛解のUC患者の1年以内の再燃を予測することができます。

最後に、この研究にご協力いただいた先生方、スタッフの皆様、患者様に深く感謝申し上げます。

これまでの研究によって、大腸カプセル内視鏡検査を活用することで検査負担を軽減しながら病状を詳しく検査することが可能であることが分かりました。この研究が多くの患者様のお役に立てれば幸いです。

(文責 松林真央)

